

ケ目となる。此等5000人の中、25年間繼續の人が300人あり、殊に、最も長年月にわたる観測者として

満50ヶ年以上の観測を繼續してゐる人が.....3人、	
„ 49—50年間の	„2人、(内、婦人が1人)
„ 48—49年	„3人、
„ 47—48年	„3人、
„ 46—47年	„1人、
„ 45—46年	„4人

尚ほ上記5000人中、婦人が300人で、更に其の中の3人は40ヶ年以上の繼續者であるといふ。

こうして見ると、天文のアマチュアは未だ熱心と普及とに於いて遠く及ばないし、殊に我が國に於いて此の感が深い。(山本)

談 話 會 だ よ り

昭和11年第2回談話會 (3月10日) 花山天文臺にて開催

- (1) 堀井政三氏 星晨輻射平衡によるスペクトル配圖
- (2) 公文武彦氏 Mass and Velocity of Meteorites and the Air Density along their Luminous Paths.
- (3) 柴田淑次氏 My Programs of the Coming Solar Eclipse on June, 1936

(4) 山本一清教授 Determinations of Stellar Parallax by E. Johansson

昭和11年第3回談話會 (4月16日) 樂友會館にて開催

- (1) 小山秋雄氏 19 Lyrae を中心とする變光星乾板
- (2) 稻葉通義氏 On the Recent Eclipse of ζ Aurigae
- (3) 荒木俊馬助教授 H. D. 45910 の Spectrum の變化に就いて

この日の談話會は花山と教室合同にて開かれ、來會者學内18名、學外1名の盛況であり、談話會の終了後、京大花山日食観測隊計畫に就き山本教授の沿革談あり、最後の計畫、組織につき討議が行はれ、別頁に發表の如き決定を見た。

因みに、第4回は9月12日花山で開かれる筈。